



「津沢の町は景気はよかったです。僅か五十年前の時代。」
 そう語り始めたのは、やしま呉服店からご紹介頂いた魚政亭のご主人、浅地さん。
 「お袋の信用と人柄のお陰で輪島の海女さんが冬場の出稼ぎとして来て、手伝ってくれた。」
 津沢の街は、江戸初期に阿曾三石衛門が町立てをし、治水が安定しており、呉西地区の米の集積地、藩の倉庫があった。
 西砺波郡砺中町の時代も中心が津沢で、三色の

魚政亭 浅地 政博
 やりたいことがある。
 いっぱいある。

No.85

パイプネオンが1000個以上光輝く粋な町並みだった。『江戸時代から続く300年の歴史がある栄えた町』という心を津沢の昔の人は持つている。
 「子どもの頃は、買い物籠をもってお母さんと、肉屋さん、魚屋さん、八百屋さんとハシゴをする時代でした。」
 奥さんが語る。
 街中の商店は目利きのものだけ売るから、悪いものはない。それは、信用が第一だからだ。自然と悪いものは淘汰される。それが、郊外型のスー

この街で頑張る人、会社、団体を「人と人とのつながり」で紹介していきます。



パーが伸び、小売店がダメになるといふことは、日本のモノづくりもダメになるといふこと。
 「現在、津沢で本当に商売だけで生活している家は指で数えるほどしかないんじゃないかな。」
 バブル前、同業者が高級志向の料理や庶民型の居酒屋といった差別化を図り、どんどん伸びていく時に、魚政亭は取り残されていた。
 その時、「帰ってきてくれないか」と一度も人に頼んだことのない母親から言われたことをキッカケに、浅地さんは砺波の仕事辞め小矢部に戻ってきた。
 無給で働きながら、1年ぐらいでやっと仕事が増えはじめた。しかし、冠婚葬祭の変化、公共施設の充実。
 「結局商売っていうのは儂いもの。世の中の流れが変われば、すぐ流れる。平成10年頃、これでもう終わった。打つ手がないと感じた。」
 そんな折、京都の骨董市へ。10年前の3月25日。

東山界隈を歩き出した。桜のライトアップが始まった頃。
 「見るもの、聞くもの、音、色、空気、すべてに心が震えた。みんながどんな商売をしていたのかを知らなかった。世間知らず。井の中の蛙。つくづく反省した。」
 「お客さんを迎えるための努力もせず、暇やと嘆いていたんです。時間はある。自力で切り開く努力をしよう。」
 日本の伝統文化が如何に大切かもその時理解した。参考になるカフェやお店には、時間があれば何度も出かけるようになった。
 「それで、自分の店を直さないといけないことが見えてきたんです。」
 自分の感性を磨き、自力で改装を始めた。3年目ぐらいが苦しかった。仕事が減り、お金が出ていくだけ。
 「このままじゃダメだ。」
 そのとき考えたのは、「違う商売をするとしても1千万円かかる。それならここにその1千万円をかけよう。それが無理なら死を覚悟しよう。」
 そして、一つの広告がキッカケにお客様が増え、人のつながりで取材をしてもらうようになった。
 夜高の無料休憩場としてもずっと開放している。「店で音楽を聴いていると『ああ、いい店になったなあ、がんばろう！』と思えるようになった。」
 そして、高岡の土蔵フェスタのステキな庭でワインを飲みながらのライブを偶然見たとき、「ぜひ自分のお店でやろう」と一つの夢ができた。
 「60歳を過ぎてやりたいことが一杯ある。僕は幸せだと思っ！」
 「体はガタがきていてるけど、まだ生きてる。これでもか！っていろいろ工夫をして驚かす事、チャレンジする事が、楽しい進化していける。」
 そして最後の奥さんの言葉が忘れられない。「夫婦で同じ方向を向いて生きていることが幸せ。毎日がパーフェクトです。」



各種ご宴会・ご会食
日本料理 魚政亭
 〒932-0115
 富山県小矢部市津沢436
 TEL 0766-61-2056
<http://www.uomasatei.serio.jp/>

プレゼント



京都の高級料理店に納めている
 大変高級な一品。

とるみ湯葉(汲み上げ生湯葉) 5名様

募集期間：平成24年3月19日(月)まで
 PC・携帯からのご応募：<http://www.startaro.com/shop/>
 OYABE SNS会員様はキャンペーンに自動応募されます
 Oyabe Local SNS：<http://www.sns.startaro.com/>

今度、コーヒーを飲み
 家族で行こう！



店長の一言